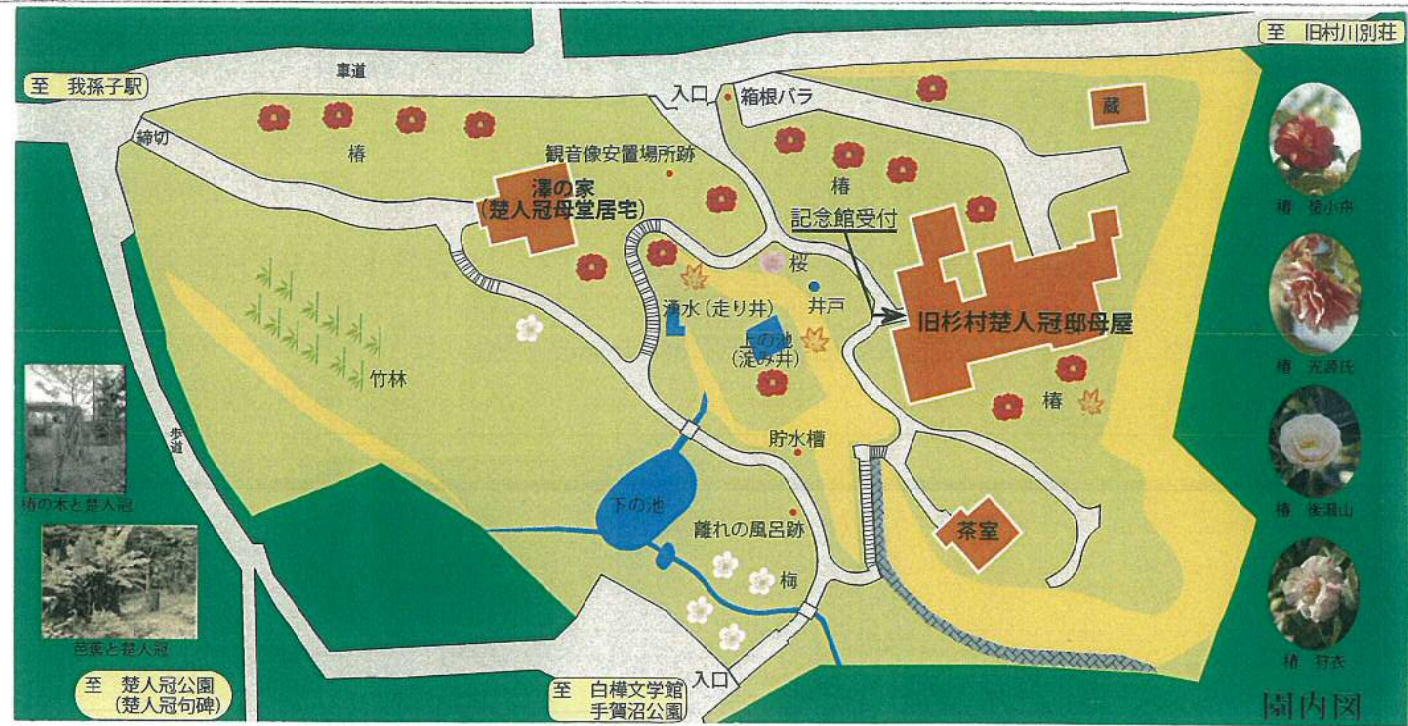


旧杉村楚人冠邸園



旧杉村楚人冠邸園は、竹林、椿、池などが特徴です。池と水路はすべて井戸からの湧き水を利用してあり、楚人冠は下の池近くにこの水を引いて風呂を楽しんだそうです。

楚人冠は数ある庭木の中でも、特に椿を愛したそうです。その証拠に黒ずんだ葉の中に華やかな大きな花がさき乱れる様子は神秘的だと隨筆に書いています。

我孫子市では、我孫子の景勝と生活をこよなく愛した杉村楚人冠の旧邸を平成23年より公開しています。楚人冠のくらしなどがよくわかるので是非来てみてください。

杉村楚人冠 記念館



杉村楚人冠 (本名 広太郎) は新聞界の先覚者です。近代日本のジャーナリズムの発展に多大な貢献をした。国際的ジャーナリストでもあり、名随筆家、俳人でもあります。我孫子に別荘地を購入して、関東大震災後に我孫子に移り住みました。

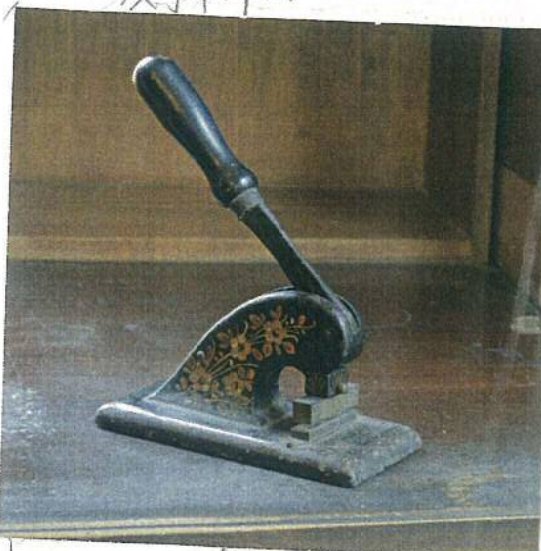
杉村楚人冠記念館は楚人冠が我孫子に定住する時に建てた母屋を利用して、記念館の整備をもとに昭和4年頃の様子を再現しました。母屋のほか、離れの茶室、我孫子の名工 佐藤鷹蔵 が建てた現在する中では最も古い澤の家とほぼ入れ替わり、そして蔵が残っています。



杉村楚人冠のていたく

書斎

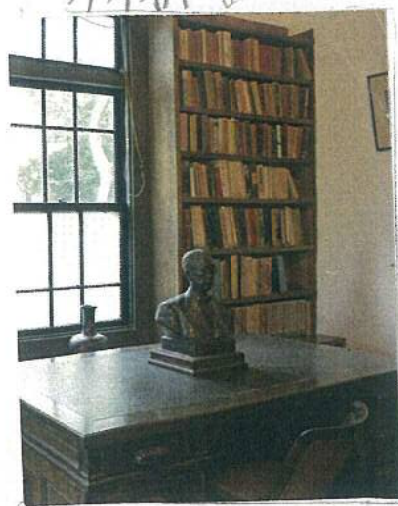
読書や手紙、日記、新聞などを
書く机があります。そのほかに楚人冠
が書いた日記や随筆、また楚人冠が



使った刻印機などがあります。刻印
機にはThe
Havah Abi
ko, Chiba-
kenと刻まれています。

サロン

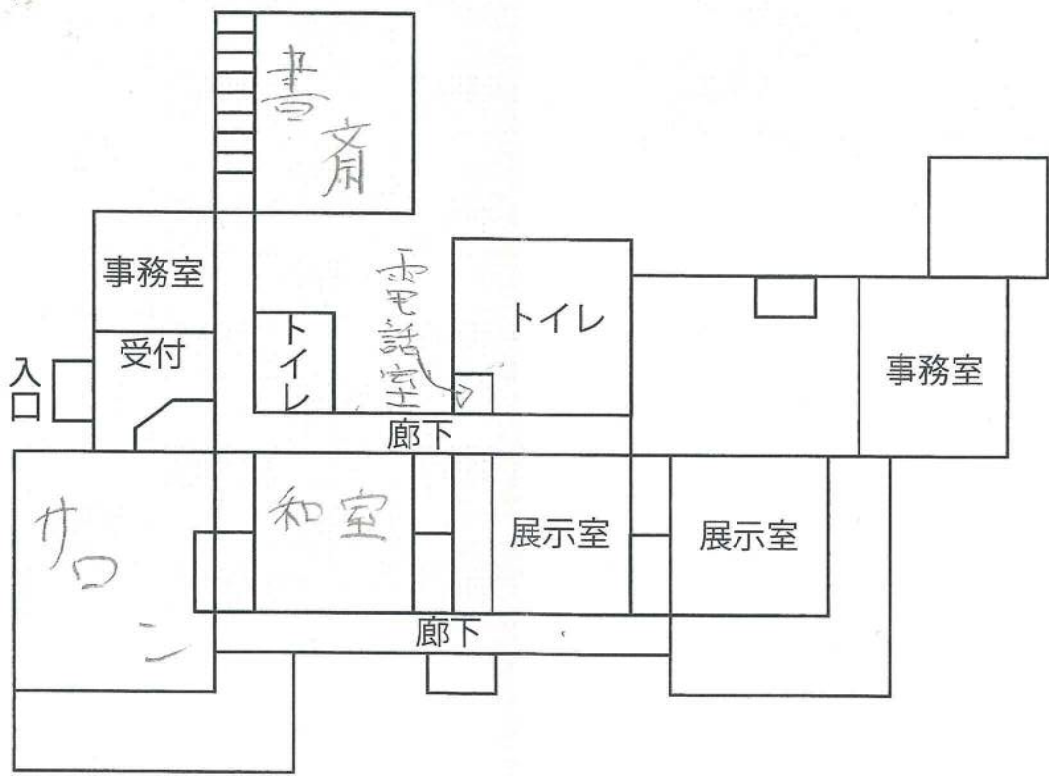
サロンは洋室です。
や、てきたお客さんと
集まっておしゃべりする
部屋です。本棚は五つあ
りそのうち三つはかべに



直接はりつけてあります。
その理由は地震の時、
たおれないようにするため
なのだそうです。

電話室

右の写真の電話
は50〜80年前の電
話で、このころの電話
は交換台に電話
をかけそのあとに電
話番号を伝え電話を
かけてもらったそうです



廊下

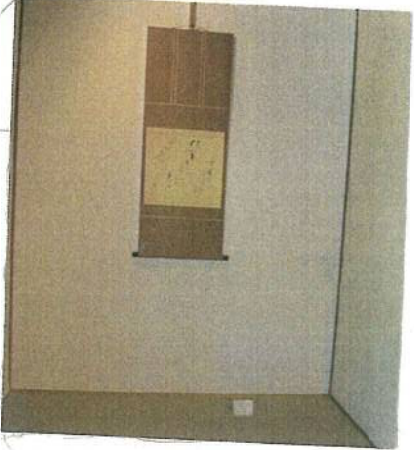
廊下のガラスは少し
ゆがんでみえます。
その理由はガラスが
古いからだそうです。
廊下から見える景色
は昔手賀沼が
よく見えたそうです。



こちらは南に面して
東や西にもまどが
あるため
日中日光が
あたるそうです。

和室

和室には
炉があり、
昔はここで



床の間

ま、茶をたててお茶会をしていたそうです。
床の間もあります。床の間とはたたみより12cmほど高く
なっていて、その上に掛け軸がかざられています。